

## 勝利の歌

柳鐘鉉 牧師

主の聖なる御名を賛美します。皆様のご家庭の上に、神様の溢れるばかりの祝福と恵みが注がれることを祈ります。新型コロナで全世界が今大変でありますけれども、このような時であっても私たちクリスチャンは喜びと賛美の礼拝を主に捧げなければなりません。この世の中で起きてくる問題は全て神様が知っておられますし、神の許しなしでは起きてくるものは何一つないからであります。

この時こそ、私たちはひざまずき、主に祈り求めなければならないとそう思います。皆様一人一人の健康と信仰が主にあって守られようにと願います。

今朝、私は旧約聖書イザヤ書26章1節から4節までの短いみ言葉を通して、神様が私たちにおっしゃって下さった、約束して下さった素晴らしい約束に、目も心も向けていきたいと思います。

説教題を「勝利の歌」と、つけさせていただきました。イザヤ書26章1節から4節までのみ言葉の中に2つの大切なメッセージがあります。

1つは、勝利をうたうその時はくる。という事です。2つ目は、誰がその勝利の歌をうたえるのか？その勝利の歌をうたう人は誰なのか？ということについて語らせていただきます。

私の祈りは、ここに集まっている皆様一人一人がすべて、その日に勝利の歌をうたい小羊であられるイエス様と共に勝利の歌をうたえることでもあります。

それではイザヤ書26章 1 節、2 節のみ言葉を共に読んでみたいと思います。私は口語訳聖書をもっておりますので口語訳聖書を用いてお読み致します。皆様も皆様が持つておられる聖書を用いてイザヤ書26章 1 節、2 節を読んでください。はい、どうぞ。

26:1「その日ユダの国で、この歌をうたう。「われわれは堅固な町をもつ。主は救いをその石がきとし、またとりでとされる。」

26:2「門を開いて、信仰を守る正しい国民をいれよ。」アーメン

2000年前に、主イエス・キリストは大きな声で、神の国が近づいたと宣言なさいました。その神の国は主イエス・キリストの十字架の尊い死によって実現され、現れたのであります。私たちは主のもの、主の命の代価が支払われて買い取られた主のものです。主はご自分を救い主として信じる者に、永遠の国を約束して下さいました。そしてそのようなものだけが、神の用意された永遠の国へ入る事ができるのであります。

2000年前に、神の永遠の国を宣言された方がヨハネ14章で次のよう

な言葉を書き残して下さいました。スクリーンには書いてありませんけれども、皆様の聖書を開いてください。ヨハネの福音書14章1節から3節までを読んでみたいと思います。主イエス・キリストはその弟子たちにまた私たちにこのような素晴らしい約束を残して下さいました。14章1節から3節をお読みいたします。

14:1「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。」14:2「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。」

14:3「そして行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」アーメン

2000年前に約束されたこのイエス様のこの言葉がまさに今、私たちの世代に成就されようとしています。まもなくイエスキリストは数万、数千の天使を率いて栄光につつまれて、帰って来られます。

ダニエル書を私たちは学んでおりますけれども、ダニエル書2章を読みますと、神様はバビロンの王ネブカデネザル王様にこの歴史に関

するその夢を与えて下さいました。ネブカデネザル王様は巨大な像をみたのであります。ダニエルはその巨大な像が、意味するものが何か。表している物が何かを説明してあげました。その巨大な像はこの世界歴史を、イエス様が再臨なさるまでのこの世の歴史を語っているものであったわけであります。そのダニエル書2章のあの巨大な像からみて私たちは今、どこの部分に住んでいるんでしょうか？足指先の所に私たちは生かされています。次に来る世界は石の国でありますけれども、この石の国はイエス様の再臨によって実現なさる本当の神の国であります。私たちは幸いにも生きてイエス様のご再臨を迎えなければならない、その様な世代であります。確実にその様な確率が高くなってまいりました。しかし、イエス様のご再臨の前には様々な事が起こると預言されています。エレンジー・ホワイトは150年前に次のような言葉を書き残して下さいました。

「各時代の争闘 第36章P.352」に、次のように書かれています。皆様の瞑想の言葉にも書かせていただきました。それを一緒に読んでみたいと思います。はい、どうぞ。

サタンは人々に対し、あらゆる病気を癒すことのできる偉大な医師のように見せかけながら、他方では病気や災害を生じさせ、ついには人口

の多い都市が破滅して荒廃する。彼は今も活動している。海や陸における事故や災害、大火災、激しい突風、凄まじい降雹、あらし、洪水、竜巻、津波、地震など、あらゆる場所に幾多の形でサタンは力を振るっている。彼は取り入れまぎわの収穫を全滅させ、飢饉と困窮を引き起こす。彼は空気を恐るべきウイルスで汚染させ、幾千人もの人が悪疫で死ぬ。これらの出来事はますます頻繁になり、悲惨なものになる。破滅は人間にも、動物にもおよぶ。「各時代の争闘(第36章、p. 352)」

150年前にエレンジー・ホワイトは、この世の終わりの時代を見すえてこのような預言をしてくださいました。100%この預言は大当たりです。イタリアでは8000人を超える死者が出ました。そしてその数は益々増えていくと思います。米国の科学誌である「原子力科学者会報(BAS)」というものがありますけれども、3月23日地球滅亡までの時間を示す「終末時計」の針が2018年ではですね2分だったんですけれども、一昨年より20秒進んで残り100秒となることを発表しました。これは1947年の開始以降最も「終末」に近づいたと発表したものであります。

聖書を知らない、聖書を信じない。神を知らない方々、無神論者の方々も客観的なデータを基にして、この地球の寿命をはかります。このままでいくとこの地球はもう人が住めない様なそのようなものになってしまう

[暗唱聖句] これらのことを考えて、わたしたちがまた絶えず神に感謝している



のは、

あなたがたがわたしたちの説いた神の言を聞いた時に、

それを人間の言葉としてではなく、

神の言として一事実そのとおりであるが受け入れてくれたことである。

そして、この神の言は、信じるあなたがたのうちに働いているのである。

テサロニケ人への第一の手紙 2章 13節「口語訳」

このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。

なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、

それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。

事実、それは神の言葉であり、また、

信じているあなたがたの中に現に働いているものです。

テサロニケ信徒への手紙が2章 13節「新共同訳」

皆さんおはようございます

幸せな安息日であります

神様は6日間も私たちを守り

導いてくださいました

最近ですね コロナことで本当に私たち怖がっています

そして私もですね しばらくこの最近

コロナとキリストの事ですね 少し考えました

私達1週間 今いっぱいコロナの事ですね

聞いているわけでありまして でもどれだけキリストの事ですね

聞いていたのか どれだけキリストのことに関して

私たちに考えていたのかと思えば ですね

もうコロナの方ですね 圧倒的に多いということですね

本当に恥ずかしいなあと思います

コロナは私たちに

致命的な熱やまた病気を与えて下さいますね

そしてあの～まあ～最悪の場合ですね

コロナは私たちに死に導いてくれるわけでありませ

しかしキリストは私たちに心に平安を与えて下さいます

そして私たちに私を ですね

永遠の命へと 導いてくださる方でありませ

本当にこれからですね コロナとよりもキリスのことを

キリストのことを また たくさん考えていく

私また皆様であることを祈ります

じゃあ～お祈りを持ってこの第二課

聖書の起源と性質というところですね

共に学んでいきたいと思ひます お祈り致します

神様主の聖なるみ名を賛美いたします

私たちは今季

聖書いかに解釈するか というとても大事な学びをしています

今週 1 週間私たちは第二課

聖書の起源と性質について学んできました

fdafaefgegeragreg

ghrtnjtr

私たちがどのようにこの聖書を学ぶか

この聖書を理解するかによってわたしたちの信仰がそのものが変わります

どうか霊を持って

この聖書を理解し また神様の言葉として受け止め

生きることができるように導いてください

イエス様のみ名によってお祈りいたします アーメン

まず皆様と共に暗唱聖句を ですね

共に読んでみたいと思います

第一テサロニケ二の 13 節の言葉です

少し長いんですけども まず口語訳から

共に読んでみたいと思います

はい どうぞ

これらのことを考えて私たちがまた絶えず神に感謝しているのは

あなたがたがわたし私達のといった神の言葉を聞いた時それを

人間のことばとしてではなく神のことばとして

事実その通りであるが

受け入れてくれたことである

そしてこの神の言葉は信じるあなたがたのうちに

働いているのである

次はですね 新共同訳の方をお読みいたします

このようなわけで私たちは絶えず神に感謝しています

なぜなら私たちから神の言葉を聞いた時あなたがたはそれを人のことばとして



ではなく神のことばとして受け入れたからです

事実それは神の言葉であり また信じている

あなたがたの中にげんに働いているものです

第一テサロニケ二の 13 節の言葉でした

聖書の起源と性質の学びでありますけども

本当にですね 私たちはこの聖書の起源と性質をどのように

理解するかによって ですね 私たち人生や

その信仰そのものが変えられていくことがあります

11 ページ安息日の午後のところですね 読みましたら

聖書どう扱わるべきかについて書かれています

イエス様はですね 聖書は

神様の言葉として書かれている

そして神の霊がなければ この神様の言葉を理解することは

できないとおっしゃいました

そしてヨハネの 10 章読んでみますと

羊と羊飼いの関係について書かれてますけども

あなたがたはわたしの羊ではないので

私の声を知らないよ イエス様が申し上げました

パウロもですね

パウロの手紙の中で 霊を通してのみ

神の言葉を理解することができるよと書かれているところがあります

つまり生物学や社会学で用いられる経験的な方法を用いては

数学を理解学ぶことができないように

聖書解釈においても ですね 私たちは信仰をもって

神の言葉を理解することができるということでもあります

ですから 私に一番求められるものは ですね

神の言葉のその権威を認めて

この神の言葉は神様から出たというものです

信仰をもって受け止めていく必要があるのではないのでしょうか

私たちは今週聖書の起源と性質の基礎的側面に目を向けたいと思います

それらは私たちの聖書解釈聖書理解に影響を及ぼすものであります

ある人はですね

多くの方がたはこんな質問をしたいと思います

聖書は1冊なのに 何故このように世の中には

これだけの多くの教派が存在するのか

その答えとして一つは ですね やっぱ

聖書を理解する方法が違うということでもあります

聖書いかに読むかによって

いかに理解するかによって 全然

違うそういう距離が生まれてくる

全然違う宗派が生まれてくるわけでもあります

聖書を読みますと

様々なことについて書かれていますけども

例えば霊魂不滅 地獄 煉獄

再臨 安息日 調査審判

復活 また異言 律法 聖所

恵みとかですね 信仰による義

などなど数え切れないほどの主題がありますけども

聖書 自分勝手に解釈するうことによつてですね

やっぱり全然違ふ結果 全然違ふ

そういう信仰になってしまいます

マタイの 22 章 23 節に イエス様はですね

サドガイ派の人々に対して

サドガイ派の人というものはイエス様の復活

復活そのものですね

信じない人々でありますけれども

彼らに対してイエス様が

あなたがたは聖書も神の

力も知らないの

大変思い違ひをしているとイエス様が申し上げました

他の所では 大変誤解をしていると

いうふうに書かれています

ですから 私たちは神の言葉を神様の言葉として

神様の言葉をですね

霊を持って聖霊を持って その解釈していく

そのようなことがですね

非常に求められているわけであります

早速でありますけどもえ

じゃあ日曜日の方ですね いきたいと思えます

聖書の神の啓示です

ここで啓示という言葉の意味を

ですね 少し話したいと思えます

広辞苑という辞典を調べますと

啓示で次のように書かれていました

キリスト教 ユダヤ教などで

神自らが人知を超えた真理を人間に現し示すこと

啓示という言葉ですね 日本語では牧師という言葉に

なっているわけでありますけども

表に表すという意味があります

つまりこの啓示は神様が神様

ご自分の御心をですね

私たちに示すというものであります

私たちがよく読んでいるキリストへの道という本がありますけども

その1ページ最初の言葉がですね

次に次のようになっています

自然と刑事は神の愛を証しています

天の父なる神は生命と知恵と喜びの源です

ですから神様が自らご自分のことを示して下さらなければ私たちは

決して神様のことを知ることができないわけであります

神自らがこの自然界を通してこの聖書の御言葉を通して ですね

ご自分を啓示なさったわけであります

問 1 番第二ペテロの1章

19 21 節をお読みいたします

こうして預言の言葉は私たちに一層

確実なものになった

あなた方も夜が明け 妙蔵が登って

あなたがたの心の中を照らすまで

この預言の言葉を暗闇に輝くともしび

としてそれに目を留めているが良い

聖書の預言はすべて自分勝手に

解釈すべきではないことをまず第一に知るべきである

なぜなら預言は決して人間の意志から

出たものではなく人々が聖霊に感じ

神によって語ったものだからである

そうです 聖書は神から出たものであります

聖書が他の本と違うところがそこにあるんですね

他の本我々の周りにあるすべての本というものはですね

人間の言葉です

しかし 聖書は人間の言葉ではなく

神の言葉であるということです

つまり聖書の起源は神にあります

私達が信じている神様はどんな神様なんでしょうか

永遠でおられる神様であります

ですから 永遠であられる神様でありますから

神の言葉も永遠です

神様は決して失敗なさらな

い間違いを犯さない方であります

つまり 神の言葉も間違いのない完全な言葉です

神は 永遠に生きておられる方であります

つまり 神の言葉も生きています

神様が全宇宙を創られ 支配される

最高の権威を持っておられるように神の言葉も

最高の権威を持っているものです

つまり このような理解を持って聖書開き

そして読むであれば ですね

私たちは神の言葉に対する絶対的な

信頼を持つことができるのではないのでしょうか

マタイの8章には

イエス様によって最も

ほめられた人 一人の人が出てきます

その人はですね イスラエル人ではありません

ローマ人でありました 100人隊長であります

彼の僕が本当に 病気になって ですね

本当に命が危ないだった時に

人をやってイエス様に自分のこの僕を

癒してくださるようにと強くお願いする

その場面があります

イエス様も その 100 人隊長のお話を聞いて

そして 100 人隊長のところへ行こうと思ったんですけども

100 人隊長はなんと言うんでしょうか

私はあなたを私の

屋根の下にを迎えるほどの者ではありません

ただその場で一言おっしゃってください

そうすれば 私の僕は治ります

私も 3 年ぐらいですね 軍隊の経験があります

私の上司とかですね

私より階級の高い人の言葉というものが

どれだけ力があるか ということですね

私は 3 年間 身をもって経験しました

もし その言葉に聞き従わないならば

すごい罰が待ってるわけでありまして

神の言葉は神が持つておられる権威

そのものを表します

100 人隊長のようにですね

彼は言葉の力を知っていたものであります  
ですから イエス様に対して一言おっしゃってください  
あの一言であるならば 私の僕は癒されます  
そういえばですね この神の言葉  
この聖書というものは  
全て神が言われたという言葉です

創世記1章を見ても ですね  
神は言われた 光あれ  
そうしたら 光があるわけであります  
聖書を読む時に自分勝手にですね  
解釈をするのではなく 本当に聖霊に求めて  
解釈するようにとお願いいたします 月曜日

## 靈感の過程

このインスピレーションという  
あの英語で靈感という言葉でありますけれども  
また これもですね 広辞苑で調べますと  
人間の霊の微妙な  
左右による官能と書いてありました  
人間の例の微妙な作用による官能  
ココロにピンとする不思議な感じふうですね  
なっていましたけれども



私なりにですね

この靈感というものを分かりやすく

少し考えましたら

聖霊によって与えられる聖なる想い

感動ではないんだらうかと そう思います

神様は御旨を

人に伝えるために言葉という手段をお持ちになりました

聖書は聖霊の働きを通して

神が私たちに真理を啓示されたことの結果であります

著者は聖霊さまです

先週ですね 稲田局長が話をされましたけれども

この聖書はどんな書物なのか

1600 年間を通して

靈感を受けた 40 名の人々によって書かれたものでありますね

一番古いものは今から 3500 年前

新しいものでも ですね 2000 年前に既に

書き終えられたものであります

しかしその言葉は今まさに

我々が住んでいるこの世の終わりのことですね

きちんと語ってるんですよ

今 私たちはコロナ

あの事態を迎えてるわけですけども

本当にこの疫病とか疫病に関しても 聖書はですね

本当に預言しているわけでありまして これから

この世界がどう流れていくのかイエス様の再臨の前にどんなことが

起こるのかということも聖書はきちんと預言されているわけでありまして

神様はご自分のみ旨を人々に伝えるために言葉という手段をお持ちになりました

ですから 直接神様の声が聞こえるとか

ですね 聞こえたということかね

そういう人がたまにいらっしゃるわけですけども

そうではなくて 私たちは神様の声をですね

御言葉を通して み言葉を読むことによって

いつも神様の声を聞くことができるわけ

でありますという み言葉を読めば

そこに神様の想いが思いを知ることができますので

ぜひですね 皆様 なんか感情的になってね

聖書のことを考えるのなくて

やっぱり我々の信仰というものは

み言葉の上に立たないといけないわけですから

きちんとみ言葉を読んでいきたいとそう思います

聖書は神様が書かれたものであります

火曜日 いきたいとします

書き記された神の言葉

出エジプト記の 34 章 27 節を読み致します

また 主はモーセに言われた

これらの言葉を書き記しなさい

私はこれらの言葉に基づいてあなたを

呼びイスラエルと契約を結んだからである

38 節までお読みいたします

モーセは主と共に 40 日 40 夜

そこにいたが パンも食わず 水も飲まなかった

そして彼は契約の言葉十戒を

板の上に書いた

問 3 番を少し見ますと神は

なぜこれらの言葉を書き記しなさいとモーセに

命じられたのでしょうか

そして それには どんな利点がありますか

と書いてありましたけれども

5 つの利点があります 言葉ではなくて

文字ですね この言葉を書き記しなさい

と神様はモーセに話をしました

ですから 言葉として現されたのはモーセの時代

時からですね 私たちは言葉として

神の言葉を見る 読むようになったわけであります

じゃあ 5 つの利点 一つ目

容易く忘れないようにすぐ簡単に ですね

忘れないように神様は言葉を

書き記しなさいとおっしゃいました

2 番目 繰り返されるし 長く保存ができる

3 番 より信頼できる

私達 人間はですね

罪を犯した人間というものは記憶力がかなり

何ですかね 弱くなってしまうわけでありませう

あの すぐ忘れるわけですから 忘れてしまうと

私は言ったものを相手はもう特に忘れているとかですね

反対もありますよね

ですから何か書かれていますものがあれば

より信頼が出来るわけでありませう

4 番 より多くの人々に知ってもらうことができる

5 番 一つの場所に留まることなく

後の世代に受け継がれて

多くの人たちに祝福となる

こういうふうにはですね 書かれています

ぜひ皆様にですね

お願いしたいんですけども デジタル

今もデジタル化されている時代でありますね

パソコンとか スマートフォンとか ですね 全て

なんかねまあ聖書も聖書持って来ましたか

この聖書ではないんですよ

スマートフォンで聖書ここにありますがかね

ありますけども

このでも電源がなければ使えないものであります

電源がなければ

しかし この紙というものはですね

電源がなくても我々

いつまでも使えるものであるわけでありますから

ぜひみなさまご自分の聖書ですね

ちゃんと持ってくるようお願いいたします

あまりデジタルですね 頼ってしまいますと

この紙離れになってしまうとですね～

このデジタルがですね

使えない時に困ってしまいますので

ぜひ皆様の聖書ですね

いつも持ち歩くようにとお願いいたします

水曜日 いきたいとおもいます

水曜日はキリストと聖書の類似点

となっております

問5番を読んでもみますとヨハネの1章 14 節 2 章 22 8 章 31 32 節

17 章の 17 節を読んでください

と書いてあります また肉となった神の言葉であられるイエスと

書き記された神の言葉である聖書のとの間に

あなたはどのような類似でも見ますか

ヨハネによる福音書 1 章 1 節に

どんな言葉が書かれています

はじめに 言があった

言は神と共にあった 言は神であった

2 節この言は初めに神と共にあった

すべてのものはこれによってできた

できたもののうち一つとして

これによらないものはなかったと書いてあるんです

その言が何でしょう 1 章 14 節みますと

そして言は肉体となり私たちの内に宿った

私たちはその栄光見たそれは父の独り子として

栄光であって恵みとまことに見せていた

と書いてあるんです

言葉というものはどうでしょうか

ギリシャ語では「ロゴス」

で ギリシア人はですね

このロゴスの神を拝んでいたと言われていています

知恵の神ですよ

で 言葉というものは 目に見えないものであります

つまり目に見えない神様が目に見える

ものになったことですね

使徒ヨハネは1章で説明しているわけでありませ

ユダヤ人は あなたは人間なのに

なぜ神というのか ということですね

受肉されたイエスキリスト

人間であられたイエスキリストを見て

イエスキリストはメシアではないこと

神じゃないことを彼らは言ってしまったわけでありませよ

今だにユダヤ人は

イエスキリストメシアとしては認めていません

言葉であられた

言葉であられるイエスキリストが人間となられて

私たちの救い主となっておられた

そしてイエスキリストは時間と空間の中で人間になられた

聖書研究ガイド 15 ページですね 水曜日のところ

これ ちょっと読んでみたいと思います

神はご自身を啓示する際に人間のレベルへ

降りてくださいました

イエスの人生は罪を犯す可能性を持っていましたが

罪を犯されませんでした

どういうに聖書の言語は人間の言語であって

限りがありますが

言語と人類の創造主である神は私たちに誤解を

与えない信頼できる方法で

ご自分の意思を完璧に伝えることが

おできになりますと書いてあります

時間がありませんので 次ですね 木曜日

信仰によって聖書を理解すると書いてありますけれども

ヘブライ書 11 章 3 節 6 節

とても大事な聖句であります

ヘブライ書 11 章は信仰に対する章でありますね

11 章を読みいたします信仰によって

私たちはこの世界が神の言葉で創られたのであり

従って見えるものは現れているものから

出てきたものでないことを

悟らせるのである 6 節信仰がなくては

神に喜ばれることはできない

なぜなら神に来る者は神のいますこと

とご自身を求めものに報いてくださることを

必ず信じるはずだからであります

そうです 信仰がなければ私たちはですね

神を喜ばすことができません

何をするにしても 信仰を持ってやるべきです



罪が何でしょうか 不信

信じないことが罪だと聖書には書いてありますよね

イエスキリスト信じないことは罪です

神の言葉を神様の言葉として

信じないことも罪です なぜなんでしょうか

我々が疑いを持ってしまったり

なんか懐疑論者となってしまってますね全て疑いを持って

このはずがないとかですね イエス様が海の上を

歩くはずがないとかね

死んだ者が復活されることがないとかですね

そういうふうに 持ってしまうとこの聖書はただの

ただのこの世の本と全く同じようなものになってしまいます

ですから 私達は 聖書を読む時に ですね

神様の言葉として信仰を持って 受け止め

そしてみ言葉に生きることを我々は毎日毎日

決心しなければならないと そう思います

今期はとても大事な学びとなっております

聖書いかに解釈すべきか

みなさん自分自身が自分勝手にですね

解釈することなく 本当に祈りながら

聖霊の助けを求めながら

神様の言葉を読んでいきたいと思えます

そうする者に神様はですね

豊かな恵みと祝福を与えてくださると信じております

じゃ黙禱を持ってこの時間を終わります

『瞑想の言葉』イエスは、あるいやしの場合には、

求められた祝福をすぐにはお与えにならなかった。

ところがこのハンセン病にかかった人の場合には、

訴えがなされたとたん祝福が与えられた。

この世の祝福を祈り求めるときに、

われわれの祈りに対する答えは遅れるかも知れない。

あるいは神はわれわれの求めるものよりも

ほかのものをお与えになるかも知れない。

しかし、罪からの救いを求めるときにはそうではない。

われわれを罪からきよめて神の子とし、

聖なる生活を送ることができるように

してくださるのが神のみこころである。

ハッピーサバス

インターネットを通して礼拝参加しておられます

1人ひとりを心より歓迎いたします

では最初の讚美歌希望の讚美歌 112 番を

声高らかにして讚美しましょう

希望の讚美歌 112 番 主のみいつと

①主のみいつと み栄えとを

声のかぎり たたえて

またき愛と ひくきころ

み座にそなえ ひれふす

②ゆだねまつる わが重荷を

主はかわりて 負いたもう

悩みおおき 世の旅路も

主のいませば 安けし

③よろこびもて み前にいでん

まずしき身の ささぐる

愛とまこと 主はよみして

みくらちかく 召したもう

④闇をかえて 光となす

なぐさめぬし とうとし

望みは湧き おそれは消え

み民のさち 尽きせじ聖書朗読を致します

マタイによる福音書 8章1節から 4節の言葉であります

口語訳でお読みいたします

イエスが山をお降りになると、

おびたしい群衆がついてきた

すると、そのとき、ひとりの重い皮膚病に

かかった人がイエスのところにきて、

ひれ伏して言った、

「主よ、みこころでしたら、きよめていただけるのですが」。

イエスは手を伸ばして、彼にさわり、「そうしてあげよう、  
きよくなれ」と言われた。

すると、重い皮膚病は直ちにきよめられた。

イエスは彼らに言われた

「だれにも話さないように、注意しなさい。

ただ行って、自分のからだを祭司に見せ、

それから、モーセが命じた供え物をささげて、人々に証明しなさい」。

アーメン

お祈り致します

神様 6 日間の あゆみも

守ってくださいますこの聖なる日

安息日に 私たちがインターネットを通して

また礼拝に参加できます

ように導いてくださいますことを感謝申し上げます

神様は生きておられます

私たちは生きておられる神様を信じています

我々の目で この世がどのように流れをとしても

神様は生きておられて

支配しておられる方であります

どうか コロナが全世界を脅かしている

この頃でありますけども

私たちはいつもイエス様に逃げて

イエス様から隠れ場を探して

また安全な場所を探して

生きることができるように導いてください

詩編 91 篇 また イザヤ書の 26 章の言葉を通して

神に信頼するものを神様が必ず守ってくださるという約束を

毎日毎日確認することができるように導いてください

今日 神様のメッセンジャーとして立てられます

稲田勤局長 神様が

守ってくださいまして 先生を通して

神様のみ心を語らせ

そして今私たちはどう生きるべきかということを示して

くださいますようお願い申し上げます

今 私たちは困難な時代を生きています

しかし必ず信仰を持って

勝利できるそのような約束が与えられています

神様どうか稲田勤先生を守り

導き 今 われわれに必要なメッセージを

語ってくださるようにとお祈り申し上げます

すべてのことを主に感謝し

イエス様の皆によってお祈り致します アーメン

次はですね 献金の時間を持ちたいと思います

このインターネットを通して

礼拝に参加しておられる方々にお願いします

礼拝献金をです 皆様聖別

そして捧げてください

そしてこのコロナ頃がですね

収縮されましたら

また教会に来られると思いますので

その際にまた教会に献金をです

持ってくださいとお願いいたします

礼拝献金になります

心から神様に献金を捧げましょう

本日の説教は稲田勤西日本局長によって

『それがわたしの心である』

テーマで語られます

その前に特別讃美歌を致します

希望の讃美歌 281 番 主を仰ぎ見れば

①主を仰ぎ見れば 古きわれは

うつし世とともに とく去りゆき

われならぬわれの あらわれきて

見ずや天地ぞ あらたまれる

②美しのみやこ エルサレムは

今こそわれらに くだりたもう

主ともにいませば つきぬさちは

きよき河のごと 湧きてながる

④つゆだにいさおの あらぬ身をも

きよめてみ国の よつぎとなし

黄金のみとのに 住ませたもう

わが主のあいこそ

限りなけれ柳先生特別の讚美本当にありがとうございました

先生が讚美された讚美はですね

個人的な思い出がある讚美でございまして

私の父の愛唱讚美歌で

父の告別式の時にですね

皆さんと共に讚美をした讚美でございます

ありがとうございました

礼拝の配信をご覧の皆様おはようございます

この1週間神様に守られたことをまず感謝したいと思います

昨年5月初めてイスラエルに行きました

イエス様の足跡をたどるとても恵まれた経験でした

山上の垂訓教会を訪ねました

ガリラヤ湖一望できるなだらかな広陵地帯の上にその教会は立っていました

2000年前に

イエス様はここであの有名な山上の説教を語ったというのです

イエス様の説教は革命的なメッセージでした

イエス様が説教を終えられると聞いていた群衆はひどく驚いたのです

マタイによる福音書によれば

イエス様はその説教の冒頭で真の幸福感について語っています

どのような人が幸せなのかを語られたのです

それは金持ちになることでも

地位を得ることでも

結婚して家庭を持つことでもより

高い水準の教育を受けることでもありませんでした

イエス様はこう言われたのです

マタイ 5 章 3 節であります

心の貧しい人たちはさいわいである

天国は彼らのものである

イエス様は 心の貧しい者は幸いだ

天国は彼らのものだとそう言われました

原文を見ていきますと

この言葉は感嘆文で書かれています

正しく言い直しますとああなんて幸いなんでしょう

心の貧しい者はとなります

すなわち

これ以上に幸せなことがあるでしょうかと

そういう驚きと喜びが合わさった感動の表現が

この言葉のなかに使われているのです



それぞれほどまでに幸福な心の貧しい者とは

一体どのような人を指すのでしょうか

1981年 今から40年も前のことですが

マザーテレサが来日しました

そして講演の中で彼女はこう言ったのです

この広い 地球上に貧しい国が2つある

一つは 物質的に貧しい国であるインド

もう一つは 心の貧しい国である日本

彼女はそう言ったのです

当時と今とでは インドの経済状況は大きく変わっています

一方 高度経済成長を続けていた当時の日本は

日に日に豊かになっていました

しかし物質的に豊かになっていく一方で

心の豊かさは失われていたのでしょう

マザーテレサはそんな日本人の心の状態を正しく

見抜いていたのです

日本人の精神的貧しさは今も変わっていないかもしれません

マザーテレサは心の貧しい者を否定的な意味で用いています

しかしイエス様は違います なぜなら

イエス様は決して心の豊かな者は幸いであるとは言わなかったのです

そう言われた方がずっと心に入ってくるような気がいたします

しかし イエス様が幸いだと言われたのは

心の豊かな者ではなく心の貧しい者です

イエス様がさいわいだという心の貧しい者とは

一体どのような人なののでしょうか

原文の意味を考えるとより意味が明快になります

心は 魂と訳せる言葉です

また貧しいは 惨めという意味のある言葉です

すなわち心の貧しい人とは

魂の奥底で惨めさを感じるほど

打ちひしがれている人であります

それでは 私たちはどのようなときに

打ちひしがれるほどに惨めさを感じるのでしょうか

ローマ人の手紙の 7 章 18 節から 24 節を見たいと思います

口語訳聖書で 242 ページ

新共同訳聖書では 283 ページになります

ローマ人への手紙 7 章の 18 節

18 節から 24 節 口語訳でお読みします

私の内に すなわち私の肉のうちには

善なるものが宿っていないことを私は知っている

なぜなら 善をしようとする意志は自分にあるが

それをする力がないからである

すなわち 私の欲している善はしないで

欲していない悪はこれを行っている

もし欲しないことをしているとすれば  
それをしているのはもはや私ではなく  
私の内に宿っている罪である  
そこで善をしようと欲している私に  
悪が入り込んでいるという法則があるのを見る  
すなわち 私は内なる人としては神の律法を喜んでいるが  
私の肢体には別の律法があって  
わたしの心の法則に対して戦いをいどみ  
そして肢体に存在する罪の法則の中に  
私をとりこにしているのを見る  
私はなんというみじめな人間なのだろう  
だれがこの死のからだから私を救ってくれるだろうか  
パウロは 自分の内にある自己矛盾を見せられた時に  
それをいかんともしがたい自分の内に宿っている  
罪だと言いました  
そしてなんという惨めな人間なのだろうと叫んだのです  
私たちも正直に自分自身の内側を見つめるならば  
パウロと同じように 自分の願う善は行えず  
自分が願わない悪は行い続けているという自己矛盾  
罪の状態これを認めざるを得ないでしょう  
しかし人間は  
自分のこの本当の姿がわからずにいることが多いのです

ヨハネの黙示録の 3 章 17 節をお聞きください

ヨハネの黙示録 3 章 17 節口語訳で 390 ページ

新共同訳聖書では 456 ページです

ヨハネの黙示録 3 章 17 節をお読みいたします

あなたは 自分は富んでいる豊かになった

何の不自由もないと言っているが

実はあなた自身がみじめなもの

あわれむべき者貧しい者目の見えない者

裸な者であることに気がついていない

ラオテキヤ教会の問題点は

自分の姿がわかっていないということでした

自分では自分は富んでいる豊かだ

何の不自由もないと思っているのです

しかし実際はみじめなもの哀れむべきもの

貧しい者目の見えないもの裸なものである

ことに気がついていなかったのです

まさにアンデルセン物語の裸の王様であります

実に惨めです

シモーヌ・ラヴェイユという哲学者は

このように言いました

人間にとって最も惨めなことは

自分が惨めなものであることに気がつかないことだ

この言葉は真実であります

自分の真の姿を知らないこと

気がつかないこといいや知ろうとしないことそれが問題なのです

ではどのようにしたら

自分の本当の姿を知ることができるでしょうか

内村鑑三はこう言いました

聖書は鏡なり

これを持って心の姿勢をただすべし

そうです私たちはまず

聖書という鏡の前に立つ必要があります

聖書具体的に言えば神様の律法は鏡のように

私たちの真の姿を映し出してくれるのです

しかし そこに真実の自分の姿が明らかにされても

それを自らが認めなければ意味がありません

そのために必要なのが聖霊です

先ほどの黙示録 3 章 18 節には

見えるようになるために

目に塗る目薬を買いなさいと勧められています

この目薬が聖霊なる神様です

聖霊の働きは様々ですがその大切な働きの一つが

罪と義とさばきとについて世の人の目を開くことがあります

神様の律法の前に立ち聖霊によって

目が開かれる時に私たちは初めて気がつくのです

自分が惨めな罪人であることに

救いが必要な哀れな罪人であることに初めて気がつくのです

そしてパウロのごとくああなんと自分はみじめな人間なのだろう

だれがこの死のからだから私を救ってくれるだろうかと

叫ぶのです　これは

聖霊に導かれたものが行き着く心の叫びなのであります

イエス様は

その惨めさがわかった者は幸いだと言っておられるのです

なぜなら　天国は彼らのものだからです

パウロもこの絶望的ともいえる叫びの後で

私たちの主イエスによって

神は感謝すべきかなと歓喜の声を上げています

罪人にはイエスキリストの十字架の贖い

による救いが備えられています

ゆるしと清めがあるのです

律法は　惨めな罪人を明らかにするだけではなく

それに気がついて嘆く者

救い主イエスキリストのもとに導くのです

その一つの実例を聖書から見てみましょう

聖書朗読をしていただいた

場所をもう一度お開きいただきたいと思います

マタイによる福音書の 8 章 1 節から 4 節です

口語訳で 10 ページ新共同訳では 13 ページになります

マタイによる福音書の 8 章 1 節から 4 節

お読みいたします

イエスが山をお降りになるとおびただしい群衆がついてきた

するとその時

一人のライ病人がイエスのところに来てひれ伏して言った

主よみこころでしたらきよめていただけるのですが

イエスは手を伸ばして彼に触り

そうしてあげようきよくなれと言われた

するとライ病は直ちにきよめられた

イエスは彼に言われた

だれにも話さないように注意しなさい

ただ行って自分の身体を祭司に見せ

それからモーセが命じた供え物をささげて人々に証明しなさい

山上における説教を終えた後イエス様は山を降りられます

すると一人の人がイエス様の前にやってきてひれ伏すのです

ライ病ハンセン氏病の男でした

この病は 当時のユダヤ社会では罪の象徴でした

ライ病であるかどうかは医者ではなく

祭司が判断しました

考えてみるとおかしな話です

病気は医師が判断すべきです

ところがこの病気を判断したのは祭司です

これは病気の問題ではなく霊的な問題

罪の問題だったのです

一旦ライ病ハンセン氏病と診断されたら

社会から切り離されるのです

神の宮に入ることもできません

礼拝を捧げることさえできなくなるのです

そんな一人の惨めな男がイエス様の前に来てひれ伏すのです

なぜ彼は人々の厳しい目があるのにも関わらず

イエス様の前に出てきたのでしょうか

それは イエス様の山上の説教を聞いたからであります

心の貧しい者は幸いであるというあのメッセージを聞いたからです

ある聖書注解者は

イエス様は たった一人のものに向かって説教をしておられた

少なくとも このライ病人は

イエス様の説教を自分一人に語られた祝福の言葉として聞いた

マタイもそれを意図して山上の説教の後にこの

ライ病にハンセン氏病にかかった人の記録を書き記した

そのように解説しています

この男は聞いたんです

心の貧しい者は幸いだというメッセージを



震える思いで聞いたんです天国は自分のような者のためにある  
そう宣言されたイエス様の言葉を聞いて喜び涙したのです  
それまでは神は厳格な裁判官のような存在だと思っていた  
律法学者パリサイ人の説教や教えはそのような教えだった  
でもイエス様の説教を聞いてそうではないということを知ったのです  
天の父なる神様は  
厳格な恐ろしい存在ではなく憐れみ深く  
空飛ぶ一羽の鳥や  
野に咲く一輪の花にさえ  
心をかけてくださる愛に満ちたお方なのだということを  
知って飛び上がるほど嬉しかったのです  
その神様が自分の必要ご存知でいつでも最良のものを与えてくださる  
それを知ったからこそこの男は  
恥も外聞もなく  
嘲笑と罵倒も恐れず人目をはばからず  
イエス様の前に進み出てひれ伏したのです  
男はイエス様に求めます  
主よ み心でしたら  
清めていただけるのですか  
その求めに対して  
イエス様はユダヤ人なら絶対にしないことをしました  
手を伸ばして彼に触れたのです

何年ぶりの人肌のぬくもりだったでしょうか

その瞬間に彼は言葉にできない

心の癒しを感じだかもしれません

しかしイエス様はそれ以上のものをお与えになったのです

そうしてあげよう清くなれ

そう宣言した瞬間に

このライ病人は清められました

直ちに 新共同訳はたちまちと訳しています

清めは癒しは瞬時に起こったのであります

福音書の中には

イエスさまがなされた数々の癒しが記録されています

中には癒しを得るまで時間がかかっている場合があります

例えば生まれながらの盲人が癒された時にはイエス様はツバキで泥をつくって

それを目に

塗ってシロアムの池に行って洗いなさいそうおっしゃいました

そして実際に入って洗った時に見えるようになったのです

癒しに至るまで時間がかかっているのです

しかしこのハンセン氏病の人ライ病人の求めは直ちに

瞬時に答えられました

靈感を受けた現代の預言者エレン・ホワイトはこうコメントしております

各時代の希望上巻 336 ページに書かれている言葉です

イエスは ある癒しの場合には

求められた祝福をすぐにはお与えにならなかった  
ところが このハンセン病にかかった人の場合には  
訴えがなされた途端に祝福が与えられた  
この世の祝福を祈り求めるときに  
我々の祈りに対する答えは遅れるかもしれない  
あるいは神は我々の求めるものよりも  
他のものをお与えになるかもしれない  
しかし 罪からの救いを求めるときにはそうではない  
我々を積みから清めて神の子として  
聖なる生活を送ることができるようにしてくださるのが  
神のみこころである  
罪を赦すこと  
罪の汚れを清めることこれは神様の御心そのものだということです  
それゆえに 求めたら求めた瞬間に与えられるのです  
心のうちに 隠している罪がないでしょうか  
許されたという確信のない罪  
自責の念がないでしょうか  
イエス様の赦しと 清めの恵みを信じてください  
イエス様はその罪のために  
十字架の身代わりの死をおってくださったのです  
私たちがこの恵みの約束を信じて  
心から悔い改めて許しを求めて告白するならば

その罪は瞬時に許され

清められるのです いや

すべての罪は犯した瞬間に

イエスキリストの十字架の贖いの故に許されているのです

私たちが罪を自覚して悔い改めて許しを求める時に

その許しが自分のものになるので

あります 天沼教会におりました時

毎週日曜日の夜 7 時に

講演会を行なっていました

会堂で集会が持たれましたが

講演者とそのメッセージはお隣の病院の

病室にライブ中継されておりました

ある日私はイエス・キリストによる罪の赦しについて話しました

その時に引用した聖句はヨハネ第一の手紙の 1 章の言葉でした

ヨハネ第一の手紙の 1 章 7 節から 9 節をお読みしたいと思います

口語訳で 376 ページ新共同訳で 441 ページであります

ヨハネ第一の手紙 1 章 7 節から 9 節お読みします

しかし神が光の中にいますように

私たちも光の中を歩くならば私たちは互いに交わりを持ち

ここからです

そして 御子イエスの血が

すべての罪から私たちをきよめるのである

もし罪がないと言うならそれは自分を  
欺くことであって真理は私たちのうちにはない  
もし私たちが自分の罪を告白するならば  
神は真実で正しいかたであるから  
その罪をゆるし すべての不義から  
私たちをきよめて下さる  
聖書は 御子イエスの血が  
すべての罪から私を清める  
私たちを清めると そう明言しています  
例外はないのです すべての罪です  
イエス様の血にはその力があるのです  
それゆえもし私たちが自分の罪を告白するならば  
真実の神はその罪を赦し  
すべての不義から清めてくださる  
その様な約束が伴っているのであります  
このお話をした次の日でした  
病院から電話がありました  
患者さんが 先生に会いたいと言っています  
何だろうと思いつつ病室を訪ねました  
その方は末期がんでホスピス病棟に入院しておられました  
枕辺に立ってどうなさいましたか  
そう尋ねました その方は うつむいて

黙っています 長い沈黙が続きました

そしてついにその方は一言

こう尋ねてきました 昨夜の話は本当ですか

講演で話した内容を思い起こして

罪の赦しのことですか そうです

ここで曖昧な事は言うてはいけない

そう思いまして 本当です

聖書の言葉は 確かな約束です

そう言うと その方は

私はとても人には言えない

罪を犯してきました そう言われました

そこでもう一度私はその場所で

先ほどのヨハネ第一の手紙を開いて読みました

すべてとあります 例外はありません

いかなる罪もイエスキリストの血が

清めるのです

そしてイエス様を信じる者はその許しを受けるのです

そう話しました

そして彼の手を取って一緒に祈ったんです

私が祈る言葉を

繰り返して自分の言葉で祈ってもらいました

天の神様 私の罪を許してください

ヨハネ第一の手紙 1 章 9 節の御言葉を信じます

私の生涯の すべての罪をお許してください

イエス様のみ名によってお祈り致します

アーメン

大粒の涙が流れました

静かな時が流れていきます

落ち着いたその方は

最後にありがとうございましたと

頭を下げ 最後に笑みを浮かべました

また訪問する約束をしましたが

果たす前にお亡くなりになりました

後日その方の担当だった看護師に言われました

あの日何があったのですか

どんな話をしたのですか

どうしてですかと尋ねますと

あの日以来 あの方は変わりました

穏やかになりました

最後までとても平安でした

それを聞いて イエス様の真実を

再確認させていただきました

人間は最後の最後に何を求めるのでしょうか

お金でしょうか 地位でしょうか

違います 人間が最後の最後に求めるのは  
神様との和らぎです ゆるしと和解です  
イエス様を信じる信仰によって  
私たちはそれを今この瞬間に受け取ることができるのです  
そうしてあげよう 清くなれ  
イエス様はそう言われます  
このそうしてあげようの原文の意味は  
それが心であると訳せる  
言葉だそうです イエス様は許すこと  
清めることそれがまさにわたしの願いだ  
私の想いわたしの心そのものなのだ  
だから清くなれ そう宣言しておられるのです  
イエス様は 今日も明日もこれからも  
変わることなく真実なお方です  
み心ならば 清めていただけるのですが  
とイエス様のもとにひれ伏すものには  
喜んで瞬時に そうしてあげようそれがわたしの心だ  
清くなれと ゆるしと癒しと清めを与えてくださるのです  
それゆえに 自分の罪を自覚して  
打ちひしがれる者は幸いなのです  
イエス様による 救いと許しに導かれるからです  
今朝 イエス様のこのお言葉を



信仰を持って 喜びをもって受け止めたいと思います

心の貧しい者 罪のゆえに

魂の奥底で惨めさを感じて

打ちひしがれているあなたは幸いである

天国はあなたのものである

そうしてあげよう それがわたしの心である

清くなれ

アーメン